

会 議 記 録			
会議の名称		総務文教常任委員会	
		会議場所 全員協議会室	
		担当職員 数井	
日時	令和5年4月14日（金曜日）		開 議 午前10時00分 閉 議 午後 0時10分
出席委員	◎松山 ○三上 竹内 小林 浅田 原野 福井 山本		
執行機関 出席者	垣見市長公室長、篠部SDGs創生課長 三宅生涯学習部長、元古人権啓発課長、山口人権啓発課男女共同参画推進係長 森岡教育部長、川口教育部次長、樋口社会教育課長、岡田歴史文化財課長 谷口みらい教育リサーチセンター所長、飛鳥井歴史文化財課資料館企画係長		
事務局	井上事務局長、数井事務局次長		
傍聴	可	市民 0名 報道関係者 0名	議員 4名（大西 木村 梅本 山木議員）

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

【事務局日程説明】

2 案件

(1) 行政報告

10:01～

【市長公室】

○亀岡市第2期SDGs未来都市計画(2023～2025)について

(市長公室 入室)

市長公室長 あいさつ 新課長等紹介

『亀岡市第2期SDGs未来都市計画(2023～2025)について』

SDGs創生課長 説明

10:07

《質疑》

<三上副委員長>

農林水産省から意見があったと説明されたが、その内容は。

<SDGs創生課長>

提出した計画に、再生可能な「荒廃農地」と表記していたが、第2期亀岡市総合戦略に記載されている「遊休農地」に修正してはどうかという意見があり、そのように修正した。

<三上副委員長>

パブリックコメントがなかったことについて、市民の関心がないように見受けるが、所見は。

<SDGs創生課長>

令和5年度については、SDGsの見える化を図っていきたいと考えている。

<三上副委員長>

認知度調査は実施するのか。

<SDGs創生課長>

認知度調査は検討していないが、企業と連携して取組を進める。

<山本委員>

計画において、高い独自性を認めると高評価を受けたとのことであるが、どのような点が挙げられるか。

<SDGs創生課長>

農家とアーティストとのコラボや、環境コンテンツの魅力発信、ごみを出さない社会の具体的な取組に実現性がみられるとのことであった。

<原野委員>

パブリックコメントのほかに、市民の意見を募る手法はあるのか。

<SDGs創生課長>

アイデアソン事業から意見を募っている。

<松山委員長>

パブリックコメントの期間は。

<SDGs創生課長>

1月の1か月間である。

(質疑終了)

10:14

(市長公室 退室)

10:10~

【生涯学習部】

〇LGBTQ+に関する職員の意識アンケート調査について

(生涯学習部 入室)

生涯学習部長 あいさつ 新課長等紹介

『LGBTQ+に関する職員の意識アンケート調査について』

人権啓発課長 説明

10:24

《質疑》

<福井委員>

職員対象のアンケートが36パーセントの回答率では低いのではないかと。

<人権啓発課長>

職員向けのアンケートとしては、他の全庁的なアンケートと比較すると高い回答率であるが、人権に関するアンケートとしてはもっと意識を持っていただきたいところである。

<福井委員>

人権に関わることなので、今回のアンケートではより高い回答率となるよう工夫を求めます。

<松山委員長>

今後の改善に向けての考えは。

<人権啓発課長>

パソコンの掲示板自体を見ていない職員もいる中で、人権の啓発促進を図る研修の一環として周知に努め、アンケート内で言葉の意味を説明するなど、理解を促進していきたい。

<浅田委員>

第17期の2年間で政策研究会を立ち上げ、いろいろと取組を進めてきたため、部長や課長から各所管に向けて発信をし、注目に努めていただきたいがどうか。

<人権啓発課長>

アンケート実施前の臨時部長会議で周知し、さらに所属長から強く発信をしていく。

<竹内委員>

アンケートの内容はどのように決めているのか。

<人権啓発課長>

職員が知っているかどうか、知らなければ理解できるように、人権啓発に役立てられるような質問項目としている。

<竹内委員>

第1回から3回まで多少の質問の追加があるが、ほかの質問項目は変わっていないが、その意図は。

<人権啓発課長>

経年変化を追っていきたいため、質問項目は大幅に変えていないが、現状をみて質問の追加や削除をしている。

<竹内委員>

相談事業を通じ、LGBTQ+当事者の声を確認されていると思うが、どのように反映しているのか。

<人権啓発課長>

多目的トイレをみんなのトイレとしてシンボルマークを付け、誰でも使用できるよう改善した。

<小林委員>

第3回アンケートの対象者に会計年度任用職員も含めているが、その意図は。

<人権啓発課長>

例えば、市民課の窓口では会計年度任用職員が対応していることが多く、LGBTQ+についてどのような考えがあるか確認したいためである。

<小林委員>

回答率に影響しないか。

<人権啓発課長>

確かに会計年度任用職員は毎日出勤される方ばかりではないので、回答率は低くなると思うが、正職員と会計年度任用職員の回答率を分けることを検討している。

<三上副委員長>

政策研究会から、市民と接することの多い会計年度任用職員の意識把握は重要なことであるため、アンケートには会計年度任用職員も含めるように提言したものである。対象者はどれくらい増えるのか。

<人権啓発課長>

会計年度任用職員は約800名であるが、保育関係など業務によってはパソコンを触る機会がない会計年度任用職員もいることから、回答可能な職員は600名程度と考えている。

<三上副委員長>

確かに保育所など、仕事の形態上アンケートを見ることも難しいと思うが、性自認については、幼い子どもの頃から芽生えてくることもあるため、幼稚園や保育所の先生がどのように対応されるのか、保護者に支援やアドバイスをどのようにされていくのかが非常に大事であるため、今回除外となるのが残念である。保育関係の会計年度任用職員がロゴフォームを見る機会はないのか。

<人権啓発課長>

QRコードを付けているので、スマートフォンで回答できる。業務形態上、回答しにくいとは思いますが完全に除外しているわけではなく、できるだけ回答していただけるように働きかけていく。

<三上副委員長>

教育部と相談し、「亀岡市の学校に勤めている職員」の意識把握も重要と考えるので、検討いただきたい。それから、第1回、2回目アンケートは会計年度任用職員を対象としていないため、窓口担当職員の回答があまり得られていない認識でよいか。

<人権啓発課長>

窓口を担当している会計年度任用職員の数が多い部署については、そのような認識でよいと思う。

<三上副委員長>

LGBTQ+の人たちに対する配慮と支援が必要だとの観点から、アンケートが組み立てられている印象を受けるが、政策研究会では、その当事者を大事にするのはもちろんのこと、LGBTQ+の人たちを特別なものではなく、みんなが当たり前認められる社会にするように取り組んできた。そのため、「SOGIE (ソジー)」の観点が重要であると考えており、SOGIEについて認識を問う設問を入れることはできないか。

<人権啓発課長>

問4に新たに「Ally (アライ)」の設問も追加したが、SOGIEについての質問を追加することも検討していきたい。

<三上副委員長>

昨年政策研究会の提言にもあったように、議会から全職員に対して回答を強く要請する文書を出すこともよいと思うが、どうか。

<人権啓発課長>

職員に周知する際にその文書を添付するなど、回答率向上に努めていきたい。

<原野委員>

問10について、「どのようなLGBTQ+に関する研修を受けたいですか」の選択肢に、「誰もが働きやすい職場づくり」とあるが、LGBTQ+の方に限らず、「誰もが働きやすい職場」はみんなのゴールであると思う。LGBTQ+の当事者にとって、働きやすい職場環境とは何か具体的に聞く問いのほうがよいのではないか。

<人権啓発課長>

そのような考えもあるため、検討する。

(質疑終了)

10:52

(生涯学習部 退室)

10:52

【教育部】

○かめおか児童クラブについて

○亀岡市デジタル文化資料館構築事業について

(教育部 入室)

教育部長 あいさつ 新課長等紹介

『かめおか児童クラブについて』

社会教育課長 説明

11:01

《質疑》

<山本委員>

土・日・祝日の出席児童の確認と支援員の配置はどのように行っているのか。

<社会教育課長>

事前に出席申請を受け、欠席の場合に連絡があることとなっているが、当日本庁に待機している職員が保護者に連絡して欠席と分かる場合もあり、今後スムーズな連絡体制を構築する必要性は感じている。支援員については、前日までに把握した児童数で出勤可能かどうか個別に調整している。

<山本委員>

大井町のメディアス亀岡では、外遊びできないと聞いており、一日部屋にいるとかなりの負担を感じると思うが、現状と今後の考えは。

<社会教育課長>

初の土・日・祝日開催となるため、いつも来ていない児童が来ることから、支援員も外遊びに行きにくいなど課題などがある。今後、健康面や安全面も含め改善していきたい。

<山本委員>

大井小学校の教室は使えないのか。

<社会教育課長>

学校の教室での開設が望ましいと考えているが、休みの日については、学校がセコムをかけて閉められており、現在はメディアス亀岡を借用している。

<山本委員>

安全面の確保も大変と思うが、改善の要望をする。

<浅田委員>

春休みの申込み状況は予想どおりであったのか。

<社会教育課長>

想定より少なかった。

<浅田委員>

今後利用者数が急に増加する可能性もあるが、対応は可能か。

<社会教育課長>

入会児童数から想定しているため急激に増えることはないと思うが、支援員と相談し体制構築に努める。

(質疑終了)

11:10

『亀岡市デジタル文化資料館構築事業について』

歴史文化財課長 歴史文化財課資料館企画係長 説明

11:31

《質疑》

<浅田委員>

メタバースやデータベース更新のための文化財撮影は職員ができるのか。

<歴史文化財課長>

研修を受けており、職員が撮影可能である。

<浅田委員>

文化財収蔵庫について、結露で滴が落ちる可能性もあるため配慮してほしい。

<歴史文化財課長>

換気システムを備えているが、湿度に弱いものは移設しない予定である。

<竹内委員>

アクセスした人の属性は把握しているのか。また、今後の戦略は。

<歴史文化財課長>

年齢層まで測ることはできていないが、市外へのPRを強化しつつ、子どもたちの教育への活用も検討している。

<小林委員>

史料は亀岡市域のもののみか。隣接する自治体のものはどうか。

<歴史文化財課長>

現在データベースに500点収納しているが、亀岡市内のものでもすべて紹介できていないため、まずはそちらの充実から図っていきたい。

<松山委員長>

今後利用者が増加した場合、メタバースにアクセスしづらいなど、システム保守の運用についてはどうか

<歴史文化財課長>

今年度予算でシステム運用費を確保しており、バグなどあれば対応できる。

<松山委員長>

収蔵庫のセキュリティは大丈夫か。

<歴史文化財課長>

セコムと契約を行う予定である。

(質疑終了)

11:40

(教育部 退室)

3 その他

(1) 他都市先進地行政視察について

<松山委員長>

他都市先進地行政視察等に関して事務局から説明させる。

<事務局次長>

各委員から提案のあった視察候補について受入れ可否の問合せをしたところ、4月に市議会議員選挙を控えているなど、受入れ困難の自治体が多かった。正副委員長と調整し、5月15日に新潟県三条市における学校教育の取組、5月16日に新潟県五泉市における文化ホール、ラポルテ五泉の視察が可能である。

<松山委員長>

統一地方選挙の影響があり、視察の受入れが難しく、現在は新潟県2市への視察が可能である。実施することでよいか。

<福井委員>

実施でよいが、五泉市からの帰路にかなりの時間がかかる。飛行機の移動は可能か。

<事務局次長>

飛行機を利用すると、出発時間が30分遅くなるものの、到着時間は変わらない。帰りも同様の時間が必要で、交通費が増すだけとなる。

<福井委員>

それでは、一泊二日の予定であったが二泊三日とし、関東近辺でもう一箇所視察してはどうか。

<松山委員>

福井委員から提案のあった、二泊三日に変更してもよいか。

— 全員了 —

<松山委員長>

それでは、三日目の5月17日の視察先については、正副委員長に一任いただく。事務局からほかにないか。

<事務局次長>

(新潟県三条市、五泉市の視察テーマにおける概要説明)

視察先への質問事項について、4月21日までに事務局に提出願いたい。

<松山委員長>

4月21日までに事務局に質問事項の提出をお願いする。

11:57

(2) 常任委員会の活動テーマについて

<松山委員長>

総務文教常任委員会の活動テーマを決定していきたい。意見はあるか。

<原野委員>

これまでどのようなテーマで活動されていたのか。

<松山委員長>

第17期における月例開催テーマは、前期2年間で「行政の見える化」、後期2年間で「防災・教育のSDGsによる深掘り」であった。

<浅田委員>

「子ども教育」というテーマがよいのではないか。

<小林委員>

「子ども教育」にオーガニック食材や食育という観点を含めてはどうか。

<福井委員>

出会いから結婚、出産、子育てと施策などを追っていきたいが、総務文教常任委員会の所管としては、教育委員会関係に限定されてしまう。テーマとしては「子育て」でよいと思うが。

<三上副委員長>

「子どもファースト宣言」を行い、子育て世代への支援はあるが、子ども自体への取組は手薄ではないかと思っている。子どもにスポットを当てたテーマにしたい。

<山本委員>

誰一人取り残さない教育として、不登校対策をテーマとして取り組んでいければと考えている。

<竹内委員>

小・中学生の「子ども」をメインテーマにできればと思う。

<松山委員長>

子どもの学び、育成、権利の充実についてというテーマではどうか。

<三上副委員長>

「子どもファースト宣言」をしているので、子どもにスポットをあてた施策の充実について、ということにしておけば、子どもとスポーツや子どもと文化といった教育委員会以外の所管にも及ぶことでもあるので、いろいろな活動が可能である。

<松山委員長>

「子どもに関する施策の充実について」という大きなテーマに、「学び・育成・権利」という三本柱でやっていきたいがそれでよいか。

— 全員了 —

(3) 次回の日程について

5月11日(木) 午前10時から

散会 ~12:10